

救急業務の実施状況

1 救急活動状況（前年比）

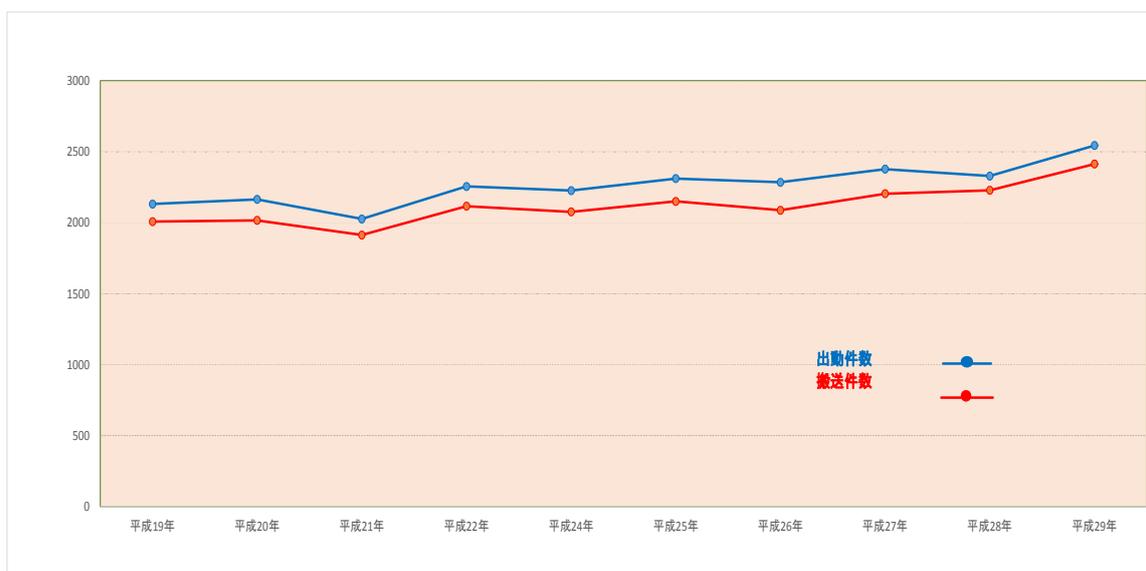
平成29年中における救急出動件数は2,543件（215件増）、搬送人員は2,413人（185人増）で、性別で見ると男性が1,254人〔52.0%〕、女性が1,159人〔48.0%〕となっています。

このうち、御坊医療圏内【美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町・御坊市〔管外〕】への救急出動件数は1,917件（228件増）、搬送人員は1,828人（225人増）であり、田辺医療圏内【みなべ町】への救急出動件数は626件（13件減）、搬送人員は585人（40人減）でした。

また、総救急出動件数2,543件に要した活動時間は延べ約3,000時間、走行距離は延べ77,849.0kmで、救急隊による出動件数の内訳は、日高救急隊1,176件（152件増）・南部救急隊592件（9件減）・印南救急隊488件（42件増）・中津救急隊287件（30件増）の順となっています。

なお、救急救命士が行った高度救命処置件数は99件で、その状況については「6救急救命士の活動状況」のとおりです。

年別救急出動件数及び搬送件数の推移



※ 昭和58年10月1日から救急業務運用開始。

※ 昭和58年から平成2年9月30日までは管轄7町村、平成2年10月1日からは管轄10町村。

※ 平成16年10月1日、南部町・南部川村が町村合併によりみなべ町となり、管轄9町村（管轄エリアの増減なし）。

- ※ 平成17年5月1日、川辺町・中津村・美山村が町村合併により日高川町となり、龍神村が田辺市と合併し、管轄6町となるが、龍神村は田辺市との消防事務の委託により業務継続。(管轄エリアの増減なし)。
- ※ 平成18年3月31日、田辺市との消防事務の委託期間が終了したため、管轄6町となる。(龍神出張所管轄エリア減)

2 救急活動の実態

(1) 救急出動件数の内容

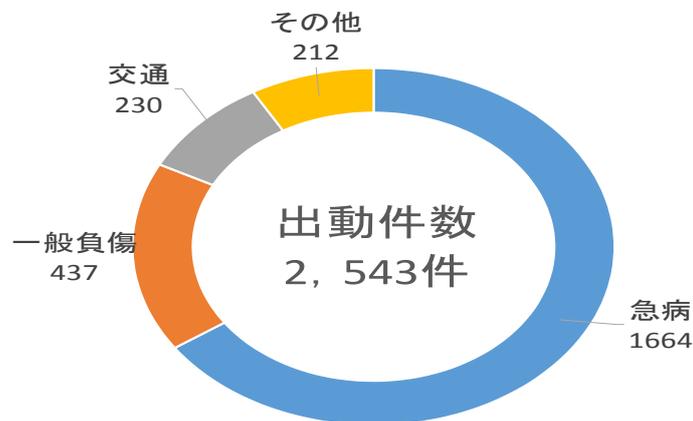
ア 事故種別 (前年比) — 第1表

救急出動件数2,543件の事故種別をみると、急病1,664件(99件増)、一般負傷437件(63件増)、交通事故230件(10件増)、その他110件(11件増)、労働災害31件(6件増)、自損28件(11件増)、運動競技24件(10件増)、加害7件(3件増)、水難事故6件(3件減)、火災4件(3件増)、自然災害2件(2件増)の順となっています。

なお、急病〔65.4%〕、一般負傷〔17.2%〕及び交通事故〔9.0%〕で救急出動件数全体の9割以上を占めています。

上記の事故種別割合を全国平均〔平成28年中〕と比較してみますと、急病〔全国64.0%〕・一般負傷〔全国14.9%〕・交通事故〔全国7.9%〕の割合が高くなっています。

事故種別救急出動件数



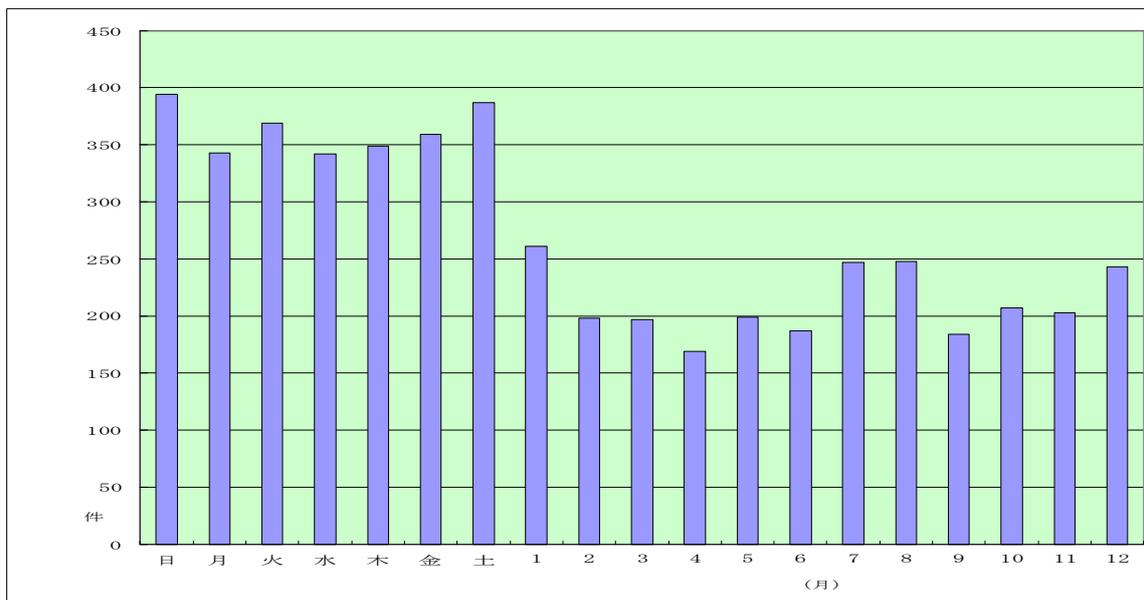
イ 曜日別出動状況及び月別出動状況 (前年比) — 第2表

平成29年中の曜日別平均出動件数は、363件(30件増)であり、最も出動件数が多い曜日は、日曜日の394件となっています。

次に、月別出動状況を見ると、1ヵ月平均212件(18件増)の出動であり、最も出動件数が多かったのは1月の261件、次に8月の248件、7月247件、

1 2月の2 4 3件・・・の順となっています。

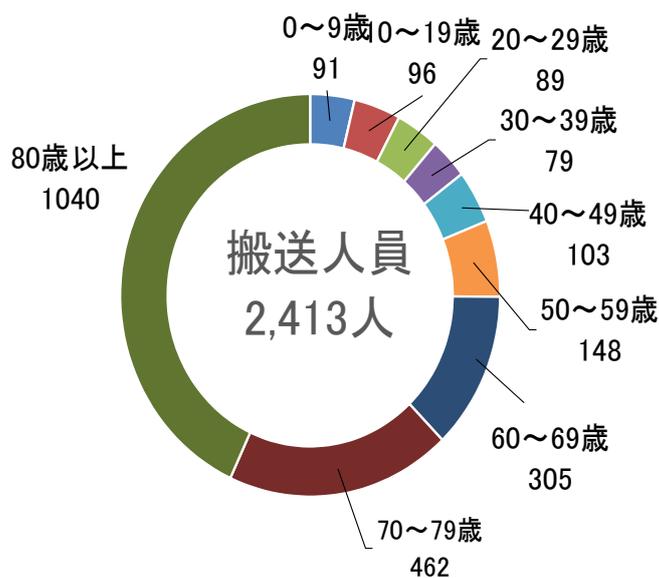
曜日別・月別救急出動件数



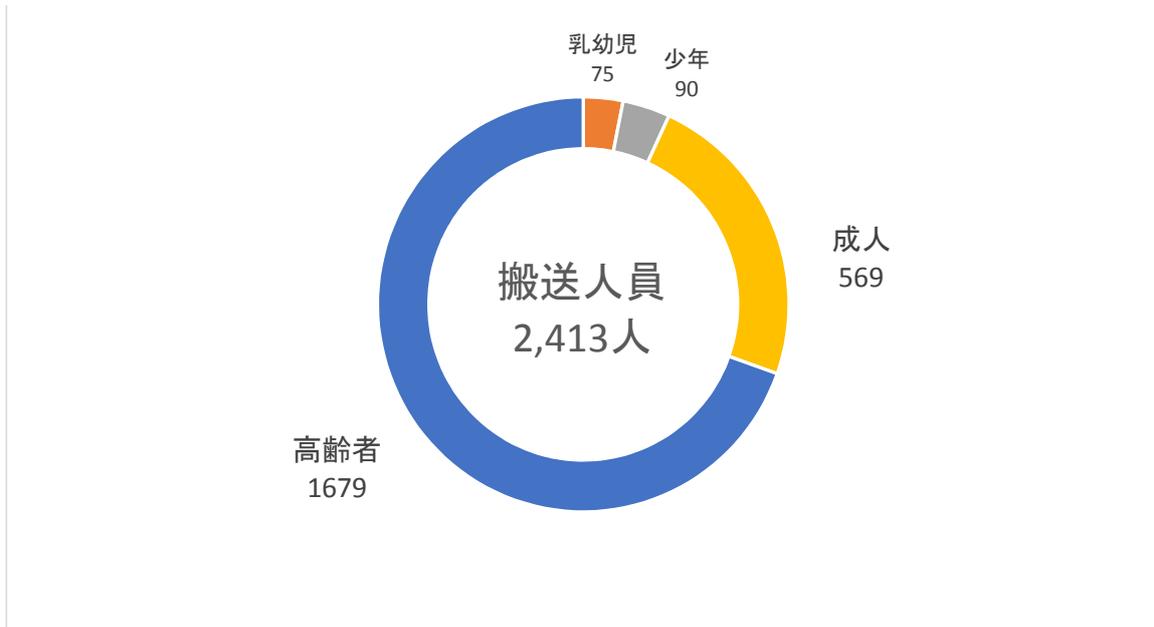
ウ 年齢別搬送人員状況（前年比） ——— 第3表

救急傷病者を年齢別にみると、80歳以上1,040人(128人増)、70歳代462人(53人増)、60歳代305人(56人増)、50歳代148人(13人増)、40歳代103人(58人減)・・・の順となっており、65歳以上の高齢者が1,679人で、全体の69.6%〔平成28年全国60.3%〕を占めています。

年齢別搬送人員



年齢区分別搬送人員



※「新生児」：生後28日未満、「乳幼児」：生後28日以上満7歳未満、
「少年」：満7歳以上満18歳未満、「成人」：満18歳以上満65歳未満
「高齢者」：満65歳以上

エ 災害弱者等の搬送状況 —— 第4表

全搬送人員2,413人中659人(27.3%)が災害弱者であり、その内訳をみると在宅療法患者163人、独居の高齢者149人、認知症の高齢者137人、寝たきりの高齢者129人、身体障害者45人、精神障害者36人・・・となっています。

また、在宅療法患者の在宅療法としては、インスリン投与中の傷病者が最も多く38人となっています。

(2) 救急発生率及び利用度 —— 第5表

管轄町別の救急出動件数は、みなべ町626件(24.6%)、日高川町513件(20.2%)、印南町444件(17.5%)、由良町351件(13.8%)、日高町318件(12.5%)、美浜町284件(11.2%)、管外7件(0.2%)の順となっています。

町村別救急出動件数



管轄町の全搬送人員からみた救急発生率〔管内住民100人当たりの搬送人員〕は4.5人であり、同発生率から住民搬送状況をみると、住民の約2.2人に1人が救急車を利用したことになります。

なお、救急車利用度の全国平均〔平成28年中〕が23人に1人であることから日高郡内での救急車の利用度は、全国平均よりもやや多く利用したことになります。

また、全搬送人員から救急車利用度を町別にみると、美浜町が約27人に1人、日高町が約25人に1人、由良町が約18人に1人、印南町が約20人に1人、みなべ町が約22人に1人、日高川町が約21人に1人が救急車を利用したことになります。

(3) 救急車の活動率（前年比）

ア 隊別出動状況 — 第6表

全救急隊（5隊）の1日当たりの平均出動件数は約7.0件（0.6件増）、1件当たりの活動所要時間は約70分（1分増）、走行距離は約30.6km（0.4km増）となっています。

全救急隊のうち、1日当たりの平均出動件数が最も多いのは、日高隊の約3.2件（0.9件増）で、日高隊の出動件数は、出動件数全体の約46.2%を占めています。

イ 覚知別出動状況 — 第7表

救急出動件数2,543件を覚知別にみると、消防専用電話（119番）が2,153件（固定電話812件・携帯電話800件・IP電話541件）で全体の約84.7%を占め、次いで加入電話の274件、駆付通報92件、自己覚知24件となっています。

ウ 時間別出動状況 — 第8表

救急出動件数2,543件を時間別にみると、就業及び生活行動が活発化する午前8時から午後8時までの時間帯が1,783件で全体の約70.1%を占め、深夜になるほど出動件数は減少しています。

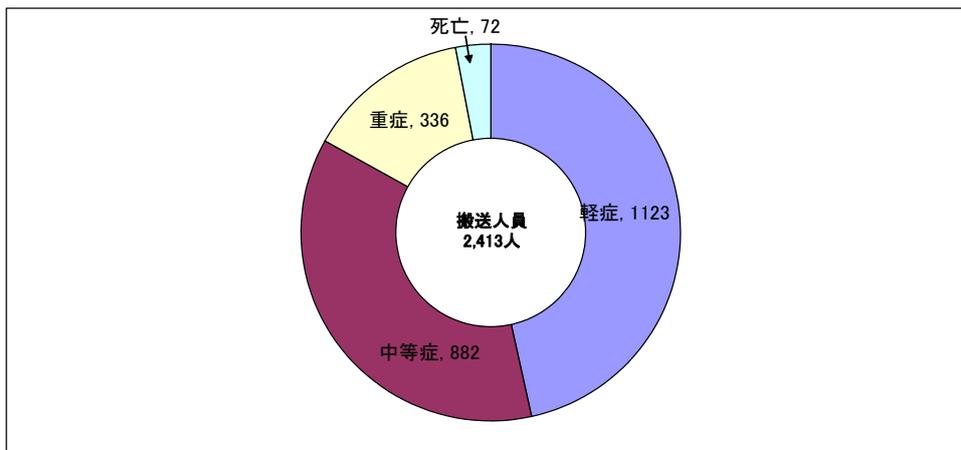
(4) 傷病程度別搬送人員の状況（前年比） — 第9表

平成29年中に搬送した2,413人について、その傷病程度をみると、入院加療を必要としない軽症患者が全体の46.5%（2.5%減）、入院加療を要するもので重症に至らない中等症患者が36.6%（0.2%減）、3週間以上の入院加療を必要とする

重症患者が13.9%(2.6%増)、死亡が3.0%(0.1%減)となっています。

この割合を全国平均〔平成28年中〕で見ると、当消防本部では重症患者〔全国8.4%〕、死亡〔全国1.4%〕の割合が高く、軽症患者〔全国49.3%〕、中等症患者〔全国41.0%〕の割合が低くなっています。

傷病程度別搬送人員



- ※ 「死亡」：初診時において死亡が確認されたもの。
- 「重症」：傷病者の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。
- 「中等症」：傷病者の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。
- 「軽症」：傷病者の程度が入院を必要としないもの。
- 「その他」：医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの。

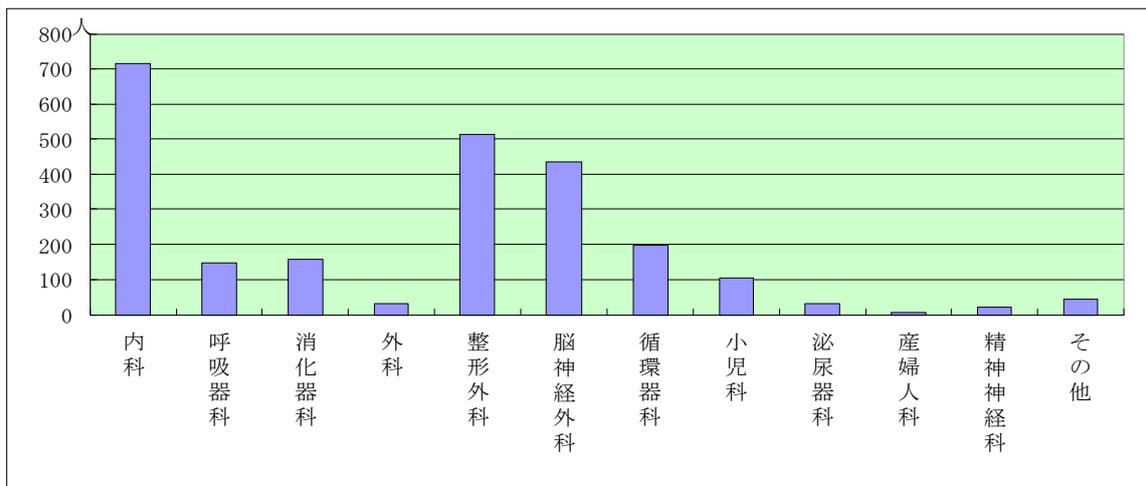
(5) 事故発生箇所別搬送人員状況 — 第10表

各傷病者を事故発生箇所別にみると、急病は住宅で発生したものが約75%を占め、交通事故は道路で約89%、一般負傷は住宅で約62%が発生しています。

(6) 診療科目別搬送人員及び収容状況 — 第11表

平成29年中に救急搬送した傷病者2,413人を診療科目別にみると、内科716人(29.7%)、整形外科514人(21.3%)、脳神経外科434人(18.0%)、循環器科197人(8.2%)、消化器科160人(6.6%)、呼吸器科148人(6.1%)・・・の順となっています。

診療科目別搬送人員



3 医療機関の実態

(1) 全救急隊（5隊）の救急傷病者収容状況

ア 医療機関別 — 第12表

平成29年中に搬送した傷病者数は2,413人で、その収容状況を医療機関別にみると、第1位が日高病院の825人（34.2%）、第2位が北出病院の618人（25.6%）、第3位が南和歌山医療センターの280人（11.6%）、第4位が紀南病院の277人（11.5%）、第5位が北裏病院の121人（5.0%）、第6位が和歌山病院の110人（4.6%）の順となっています。

なお、これら上位6病院で全傷病者の約92.5%が収容されています。

イ 重症患者の収容状況 — 第13表

全搬送人員のうち重症患者は336人で、その収容状況をみると第1位が日高病院の113人（33.6%）、第2位が北出病院の71人（21.1%）、第3位が南和歌山医療センターの39人（11.6%）の順となっています。

ロ CPCR実施傷病者の収容状況 — 第13表

CPCR（心肺脳蘇生法をいう。以下同じ。）を実施しながら医療機関に搬送した傷病者79人の収容状況をみると、第1位が北出病院の25人（31.6%）、第2位が和歌山病院の19人（24.0%）、第3位が日高病院の17人（21.5%）の順となっています。

ハ 医療機関の所在地別収容状況 — 第12表

収容医療機関の所在地別に救急傷病者の収容状況をみると、全傷病者のうち御坊市内の医療機関に1,567人（64.9%）、田辺市内医療機関に587人（24.3%）、管内である日高郡内の医療機関に122人（5.0%）、その他県内外医療機関に137人（5.7%）となっています。

ニ 事故種別による収容状況 — 第14表

事故種別からみて救急件数の多い急病、一般負傷及び交通事故について、それぞれ

の種別ごとに救急傷病者の医療機関収容状況をみると次のようになります。

(7) 急病の場合は、第1位が日高病院の39.0%、第2位が北出病院の25.2%、第3位が紀南病院の12.7%の順であり、これら上位3病院によって全急病傷病者の約76.9%が収容されています。

(イ) 一般負傷の場合は、第1位が北出病院の31.6%、第2位が日高病院の26.4%、第3位が北裏病院の13.3%の順であり、これら上位3病院によって全一般負傷傷病者の約71.3%が収容されています。

(ロ) 交通事故の場合は、第1位が北出病院の23.5%、第2位が北裏病院の20.2%、第3位が日高病院の18.1%の順であり、これら上位3病院によって交通事故傷病者の約61.8%が収容されています。

(2) 転送搬送状況（前年比）—— 第15表

平成29年中の転送搬送件数（処置困難等の理由により、第一次搬送先医療機関で収容できないため、他の医療機関へ搬送すること。）は16件（増減なし）であり、転送理由は、処置困難が12件（75.0%）、専門外が4件（25.0%）となっています。

(3) 医療機関への収容依頼回数状況 —— 第16表

医療機関への収容依頼回数は、平均1.2回であり、これは傷病患者1人を収容するのに、平均1.2カ所の医療機関にしか収容依頼を行っていないことを意味するもので、この数字は、御坊・田辺両医療圏の救急体制の充実ぶりを反映したものとと言えます。

4 救急隊による応急処置の状況 —— 第17表

平成29年中の搬送人員2,413人のうち、救急隊員が応急処置を行った救急傷病者は、2,411人（搬送人員の約99.9%）です。

救急処置の内容は血中酸素飽和度測定が最も多く2,340件、次いで血圧測定2,306件、心電図測定2,052件、心音・呼吸音聴取1,011件、保温694件、酸素吸入589件・・・の順となっています。（不搬送を除く。）

なお、全搬送人員2,413人のうち79人に対してCPCRを実施しています。

次に、応急処置の実施率について全国平均（平成28年中）と比較してみると、全国が95.6%であり、当消防本部の実施率は、全国の実施率を上回っています。

5 救命の実態 —— 第18-1表～第18-4表

(1) CPA傷病者及びCPCR傷病者発生状況

平成29年中のCPA傷病者（救急隊が現場到着時、既に心肺機能が停止している傷病者、又は病院到着時までには心肺機能が停止状態になった傷病者をいう。以下同じ。）は125人であり、平成28年中のCPA傷病者90人に比べ35人の増加となっており、全救急搬送傷病者に占める割合は5.2%で、過去3年間（平成26年から平成28年）の平均（5.5%）と比べ0.3%減少しています。

CPA傷病者125人のうち、救急隊がCPCR（胸骨圧迫及び人工呼吸）を施した傷病者は79人（全CPA傷病者の63.2%、全救急搬送傷病者の3.3%）となっ

ています。

(2) CPCR傷病者の年齢別発生状況

CPCR傷病者を年齢別にみると、65歳以上の高齢者(67人)が全体(79人)の84.8%を占めており、CPCR傷病者の高齢者比率が高いといえます。

(3) CPCR傷病者の蘇生及び救命状況

CPCR傷病者79人のうち、蘇生(24時間以上入院した者)に成功したのは9人(蘇生率11.4%)となっています。

(4) CPCR傷病者の死因別状況

CPCR傷病者の死因(医師の診断に基づく。)をみると、心疾患によるもの(29人)が全CPCR傷病者(79人)の36.7%を占めており、次にその他(18人)22.8%、窒息(11人)13.9%の順となっています。

(5) 救急隊のCPCR着手までの時間

覚知から、救急隊がCPCRに着手するまでの時間は、10分から15分未満で30人(37.9%)、15分から20分未満が15人(18.9%)、5分から10分未満が12人(15.2%)、20分から25分未満が11人(13.9%)、25分から30分未満が3人(3.8%)、30分から35分未満及び40分から45分未満が各2人(2.5%)・・・の順となっています。

(6) バイスタンダーによる救命手当の実施状況

CPCR傷病者79人のうち、バイスタンダーにより人工呼吸、胸骨圧迫のいずれか一方又はその両方が実施されていたものは46件(58.2%)となっています。このうち、胸骨圧迫と人工呼吸の両方が実施されていたもの9件(11.4%)、胸骨圧迫のみ実施されていたもの37件(46.8%)、人工呼吸のみ実施されたもの0件(0.0%)でした。

6 救急救命士の活動状況

平成29年中における救急救命処置(重度傷病者のうち、心肺機能停止状態の傷病者に対して、救急救命士が医師の具体的な指示に基づき実施した救命処置をいう。以下同じ。)は、救急隊員によりCPCRが施され、かつ、医療機関に収容された傷病者79人全員に対して実施されており、心肺停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与件数は20件で救急救命士の活動状況については以下のとおりです。

(1) 出動状況

救 急 隊 別	出 動 件 数	搬 送 人 員
全 救 急 隊 (A)	2, 5 4 3 件	2, 4 1 3 人
救 急 救 命 士 乗 車 隊 (B)	2, 5 4 2 件	2, 4 1 2 人
救 命 士 乗 車 比 率 [(B)/(A)]	9 9 . 9 %	9 9 . 9 %

(2) 救急救命処置実施状況

救 急 救 命 処 置	実 施 件 数	実 施 人 員
気 道 確 保	7 2 件	7 2 人 (食道閉鎖式エアウェイ 7 0 人) (気管挿管 2 人)
静 脈 路 確 保	6 8 件	6 8 人
心 肺 停 止	4 8 件	4 8 人 (薬剤投与 2 0 人)
心 肺 停 止 前	2 0 件	6 人 (ブドウ糖投与 6 人) ----- 1 4 人 (ショックに伴う輸液 1 4 人)
除 細 動	4 件	4 人

(3) 事故種別高度救命処置実施状況

高 度 救 命 処 置	事 故 種 別						合 計
	急 病	交 通	一 般	自 損	水 難	労 災	
気 道 確 保	5 2	3	1 1	5		1	7 2
静 脈 路 確 保	4 8	4	1 1	4		1	6 8

	ブドウ糖	6					6
	ショック	10	2	2			14
除	細	動	3		1		4

(4) 指示病院からの具体的指示の状況

救急救命士が高度救命処置を実施するに際し、指示病院から受けた具体的指示の状況は、次表のとおりです。

指示病院名	指示病院選定理由					合計(%)
	かかりつけ	原因疾患	指示輪番	外傷	その他	
日高病院	10		9	2	7	28(28.3%)
和歌山病院	5		14		1	20(20.2%)
北出病院	4		18	2	6	30(30.3%)
北裏病院				3		3(3.0%)
紀南病院	1				6	7(7.1%)
南和歌山	2				5	7(7.1%)
その他					4	4(4.0%)
合計(%)	22(22.2%)		41(41.4%)	7(7.1%)	29(29.3%)	99

7 住民指導等

(1) 上級救命講習の実施状況 —— 第19表

当消防本部では、平成8年6月から実施している普通救命講習の修了者を対象に実施しており総受講者数は464人となっています。

(2) 普通救命講習Ⅱの実施状況 —— 第20表・第21表

業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定されている者を対象とする普通救命講習Ⅱを平成17年から実施し、総受講者数は117人となっています。

(3) 普通救命講習Ⅰの実施状況 —— 第22表～第26表

平成29年中において普通救命講習Ⅰを43回実施し、680人が受講しました。

なお、受講者の年齢層は、10歳代が628人(92.3%)と最も多く、次に30歳代の17人(2.5%)、40歳代の12人(1.8%)、50歳代の8人(1.2%)、20歳代の7人(1.0%)、60歳～64歳の6人(0.9%)、60歳以上の2人(0.3%)となっています。

また、男女別では、男性が335人(49.3%)、女性が345人(50.7%)となっています。

次に、受講者を職業別にみると、学校関係者が625人(91.9%)、各種事業所関係者が33人(4.9%)、その他団体が9人(1.3%)、消防団関係が8人(1.2%)・・・となっています。

普通救命再講習は20回実施し、121人が受講しています。

(4) 一般講習〔救急講習〕 —— 第27表

平成29年中において管内各地で行った救急講習会は71回で、1,811人に対して心肺蘇生法の指導を行っています。